

# 生徒会通信 第4号

## 軟式野球部 東海地区大会初戦で涙 全国の夢散る!

6月12日(土) 知多運動公園野球場

準決勝

学校名	1	2	3	4	5	6	7	計
大橋学園	0	0	0	2	1	4	0	7
城北つばさ	0	2	0	0	0	0	4	6

第68回全国高等学校定時制通信制軟式野球大会の出場権をかけ、東海4県の代表校で争う東海地区大会が6月12日(土)に知多運動公園野球場で行われ、本校は準決勝で三重県代表の大橋学園高校と対戦した。



この日の先発は左のエース加藤駿弥。初回から低めに制球されたカーブを武器に相手打線を手玉に取り、3回までを打者9人、無安打、4奪三振とパーフェクトなピッチングを見せる。

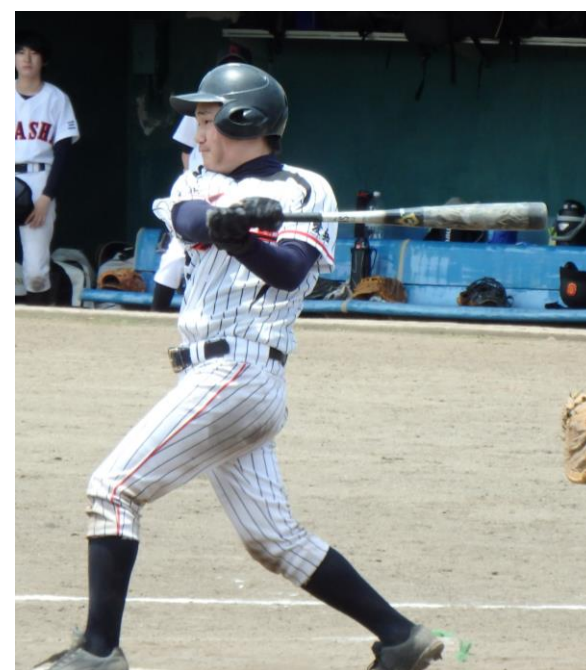
先制したい打線は、初回、1死から2番小松雷悟が見事な左前安打で出塁するが、3番小宮優人の内野ゴロの間に3塁を狙ってタッチアウトとなり、先制のチャンスを逃す。続く2回には先頭の加藤が四球で出塁すると、相手のミスが重なりラ

ッキーな形で1点を先制する。なおも無死3塁のチャンスをつくるも、この日2つ目の走塁ミスで追加点のチャンスを潰す。嫌な流れを断ち切ったのが8番杉本竜輝。2死2塁から右中間へ適時打を打ち、欲しかった追加点を奪うことに成功する。



3回までパーフェクトピッチングの加藤は4回、先頭を四球で歩かせると2死を奪うも味方のまずい守備などもあって2点を奪われ、同点とされると、続く5回にも2つの四球と適時打で1点を失い、勝ち越しを許す。

嫌な流れを断ち切ろうと、6回からは右のエース吉井涼太が登板するが、先頭を味方のエラーで出塁させると、その後はコントロールが定まらず、後続に4者連続の四死球を与えてしまい、1死も取れずに2点を失いリードを広げられてしまう。その後は、再び登板した加藤が吉井の残したランナー



2人を生還させるも、最後は併殺打に打ち取り、この回を4失点で切り抜ける。

3回以降、チャンスは作るものの、打線につながりを欠き、無得点が続いていた打線は、5点差とされた最終回、2つの四死球で2死1・3塁とすると、3番小宮が左越え適時打を放つと、相手の送球が乱れる間に一気に本

塁を陥れ、2点差に迫る。さらに、続く4番加藤が四球で出塁し、盗塁で2死2塁とすると、5番米山の内野安打の間に加藤が生還し、1点差に迫るが、追い上げもここまで。最後は山田駿介が見逃し三振に倒れ、6-7で決勝進出を逃した。(文責：鈴木貴之)

